

一般質問



動画は
こちら



子育て

問

子ども誰でも通園制度の
受け入れ態勢は？

答

令和8年度の実施に向け、
受入体制を検討中

木村 隆議員

国は、育児負担の軽減と子どもの健やかな成長を支援するため、「子ども誰でも通園制度」を来年4月から施行しようとしています。

- ① この制度を来年4月から当町で開始する予定があるのでしょうか。
- ② 開始予定であるのなら、どのような受け入れ態勢を考えておりますか。
- ③ 利用時間や料金、障がいを持つ児童の受け入れはどのように考えておりますか。



【一般質問】町の色々な課題等について、議員が町長等に対して質問や提案をすることです。

鳴海町長

- ① 国の方針に沿い、令和8年度からの実施に向け準備を進めている。
- ② 現行体制を基本に、認定こども園の3歳未満児のクラスに空きがあれば受入。保育士の配置基準を満たさない場合は代替保育士の配置を検討している。
- ③ 月10時間・無料を想定、障がい児の受け入れは今後検討を進める。



動画は
こちら



生活
環境

問

ヒグマ緊急発砲
マニュアル整備と今後の対応は？

答

対応マニュアルを策定予定
今回の対策は継続

佐藤 孝男議員

クマ駆除対策の主体が自治体の判断に委ねられ、今後は市街地での猟銃使用は町長が判断ということになります。

- ① 早急に関係団体と会合を開き、マニュアルを作成し、共有する必要があると思うが、町長のお考えはいかがでしょうか。
- ② 今回と同様の対応を来年度以降も継続するのでしょうか。

※ 関係団体とは、警察、消防、ハンター、町職員、町内会など

鳴海町長

町では、出没多発時点から加害個体確保までの対応状況について検証を進めている。

- ① 検証を踏まえ、関係団体と連携を図りながら、マニュアルの策定を進める。
- ② 電気柵設置、緊急的な草刈り、ゴミ出しの注意喚起、防災無線を活用したヒグマの出没情報の周知を引き継ぎ実施する。



動画は
こちら



生活
環境

問

ヒグマ出没
警報や財政措置の対応は？

答

警報は道の基準
電気柵設置など財政措置を活用

熊野 茂夫議員

ヒグマ出没に対する対応の検証と、今後の対応策の基本的な考え方について、次の点をお答えください。

- ① 町独自の警報発令の選択肢は考えられなかったのか。今後は発令を検討しては。
- ② 市街地に侵入したヒグマを市町村の判断により猟銃で駆除できることとなるが、町長、職員の現体制で対応できるのか。組織体制構築の検討が必要ではないか。
- ③ 電気柵等の全町設置や定期的な除草に係る人件費などの財政的措置についてどう考えているか。

鳴海町長

この度の事故は全国・全道的にもまれなケースであり、町では、庁舎内はもとより、北海道、道立総合研究機構と連携しながら検証を進める。

- ① ヒグマ警報は道が発令しており、町独自の判断で警報発令はできないと考えている。町独自の警報発令は考えていない。
- ② 新制度の推移を見ながら現行体制で対応、必要に応じ北海道ヒグマ緊急時専門人材派遣事業を活用する。
- ③ 鳥獣被害防止計画を策定している当町では、事業費の80%が財政措置されるため、必要に応じた対策を引き続き講じていく。



動画は
こちら



産業
・
教育

問

若者の地元定着
教育と雇用の連携強化は？

答

協議の場を設け、
現行施策を充実・継続

平沼 昌平議員

キャリア教育と地元企業との連携強化について提案したいと思います。

- ① 高校・町・企業による「地域キャリア教育推進協議会」などの設置を検討してみるべきではないか。
- ② 地元企業による職業講話・インターンシップの定期化
- ③ 雇用促進事業の周知強化と制度改善（定着支援を含む）
- ④ 若者定着に向けた包括的支援策（住宅支援、地域交流、Uターン促進等）を検討、或いは再考してみてはどうか。

小野寺教育長

- ① 必要性を感じるが、まず関係者で話し合いの場を持ちたいと考えている。
- ② 現在も取組を進めており、他教科との関係から増やすことは難しいと考えているが、高校と十分協議し、内容の充実に向けて支援していく。

鳴海町長

- ③ 制度は一定の認知がされており、定着支援も安定した就労環境が確保されていると考えている。
- ④ 定住向け町有住宅等による住環境向上と併せて、引き続き、若者・子育て世帯を中心とした定住・移住対策を推進していきたいと考えている。